

G空間情報センター

ニュースレター 第21号 2020年9月発行

【目次】

[1. TOPICS 「まちに愛着を生む市民協働ツール MY CITY REPORT」](#)

[2. 上位アクセス状況\(集計期間：2020.7.1-8.31\)](#)

[3. 最新のお知らせ](#)

[4. センターへの期待「WITH コロナで求められるキーワード」](#)

[5. 注目の新規コンテンツ紹介](#)

1. TOPICS 「まちに愛着を生む市民協働ツール My City Report」



G空間情報センター 角田 明宝

自治体には、道路の損傷や公園遊具の破損、ゴミの放置や落書き等日常生活における様々な困ったことが寄せられます。これらの多くは電話により受け付けられ、職員自らが現地に赴き確認し対応を行っています。また、道路の損傷については、職員が日々パトロールを行い発見に努めています。一方で、自治体にも人件費削減が求められると共に、これらの業務に携わることができる専門知識を持つ職員の減少により、対応が遅れてしまう現状があります。

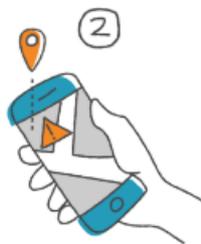
このような背景から、G空間情報センターを運営する（一社）社会基盤情報流通推進協議会と東京大学生産技術研究所、合同会社 GeorepublicJapan が主体となり、住民からの困った情報等を直接投稿いただく「市民協働投稿サービス（for citizens）」とAIを用い道路損傷箇所を自動で検出する「道路損傷検出サービス（for road managers）」を開発し、複数の自治体が参加するコンソーシアムで共同運用する「My City Report」を全国の自治体で展開中です。

1) 市民協働投稿サービス（for citizens）

市民協働投稿サービスは、住民自らスマートフォンにインストールした専用アプリにより、困った状況の画像と位置情報を投稿し、共有された困った状況を自治体と市民が協働して対応するためのサービスです。



① 道路の損傷など、まちの「こまった」を発見



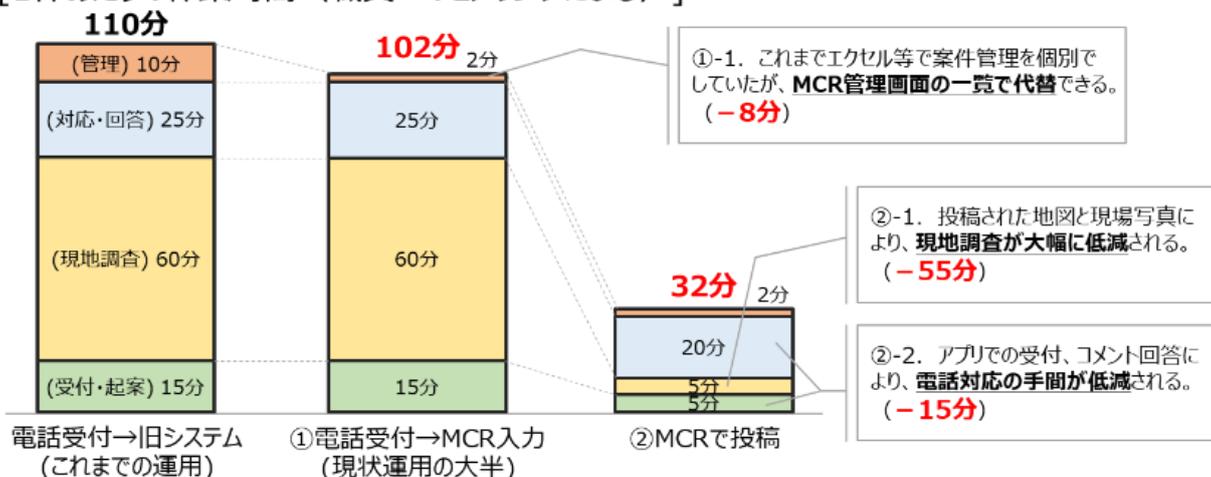
② My City Report for citizensを使って、画像、位置情報などを共有



③ 共有された「こまった」に対して、自治体と市民が協働対応

このサービスをご利用いただいている兵庫県尼崎市様によりますと、電話による受付から現地調査、対応・回答まで、一件当たり 110 分かかっていた対応時間が、My City Report を利用することにより、現地調査の時間が大幅に削減され、わずか 32 分になったと報告を受けています。

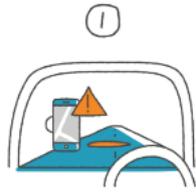
[1件あたりの作業時間（職員へのヒアリングによる）]



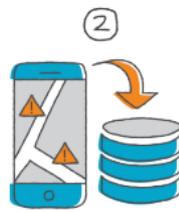
2) 道路損傷検出サービス (for road managers)

道路損傷検出サービスは、専用アプリをインストールしたスマートフォンを自動車のダッシュボードに設置しパトロールすることにより、アプリが自動的に道路の損傷箇所を検出し、損傷画像とその位置情報をサーバにアップロードするサービスです。道路管理を行う職員は、アップロードされた情報をもとに、道路管理計画や補修計画等の策定に利用しています。

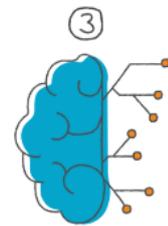
使い方



① スマートフォン専用アプリを用いて自動計測



② 検出された損傷画像を自動でサーバーへアップロード



③ 日々蓄積されるデータをAIに学習させ、さらなる精度向上

このサービスをご利用いただいている滋賀県大津市様によりますと、昨年 176 日間で 231 路線の道路パトロールを行い、2,972 件の道路損傷を発見できたと報告を受けています。

3) 千葉市様の取り組み

My City Report を実証実験段階から共に取り組んでいただいております千葉市様では、平時には「まちに愛着を育む」取り組みとして、「身近な生き物さがし」や「私のお気に入り桜スポット」といったテーマを設定し、住民に積極的な参加を促しています。一方災害時には、令和元年房総半島台風（台風第 15 号）発生後に、道路の倒木や集水桝周囲の状況等、身近な被害について報告を求め、40 数件のレポートが投稿されたと報告を受けております。

以上、My City Report について、事例紹介をさせていただきましたが、インフラの維持管理にとどまらず、アイデア次第で様々な場面での活用が期待されます。本年度は、for citizens をより身近なツールとするため、LINE との連携を図る予定です。また、for road managers では、損傷箇所の補修判断を AI で行う「補修優先順位付け機能」を開発予定です。

My City Report は、本年度の[情報通信白書](#)でも紹介されています。また、試行環境の無償提供も行っておりますので、自治体の職員様に於かれましては、My City Report コンソーシアムへのご入会をご検討いただければ幸いです。

2.上位アクセス状況(集計期間：2020.7.1-8.31)

登録ユーザー数	7,068 名
期間アクセス数	284,399
登録組織数	457 件
データセット数	5,424 件
ファイル数	49,883 件

人気のデータセット

1	将来人口・世帯予測ツール V2 (H27 国調対応版)
2	兵庫県_全域数値地形図_ポータル (2010 年度～2018 年度)

3	静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ
4	長野県_CS 立体図
5	兵庫県_全域 DEM (2010 年度～2018 年度)
6	兵庫県_全域_標高ラスター/CS 立体図 (2010 年度～2018 年度)
7	ポイント型流動人口データ
8	将来人口・世帯予測ツール
9	断面交通量データ (位置情報付) 提供 API
10	海洋台帳

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[こちら](#)

最新のデータ公開情報は[こちら](#)

<無料オンライン展示会>CEATEC 2020 ONLINE に出展します。

「つながる社会、共創する未来」をテーマに、Society5.0の実現に向けたソリューションや製品が一堂に会する「CEATEC 2020 ONLINE」が10月20日から4日間にわたり開催されます。

CEATEC 2020 ONLINEの詳細は[こちら](#)

このイベントに「G空間情報センター」が出展いたします！

まだG空間情報センターをよく知らない方にセンターでできることをご紹介しますとともに、最新の取り組みをご紹介します。

オンライン開催のため、会期中いつでもどこからでもアクセス可能です。

是非ご予約ください。

- ・会期：2020年10月20日(火)～23日(金)
※会期以降はオンデマンドとして12月31日まで公開
- ・会場：<https://www.ceatec.com>

4. センターへの期待「With コロナで求められるキーワード」



KDDI 株式会社 石橋弘志

● G 空間情報センターとの出会い

私が初めて G 空間情報センターを知ったのは、今から 1 年前 2019 年秋ごろです。
また、弊社は位置情報関連サービス事業の立ち上げを実施していた時期でもありました。

そんな中で出会ったのが G 空間情報センターの皆様でした。

私は当時、人流情報以外の地理空間情報などの知識が浅かったこともあり、様々なデータを扱っている G 空間情報センターのサイト内容に驚いたところを今でも覚えています。

● KDDI が提供する G 空間情報

G 空間情報センターには、KDDI として [KDDI Location Data](#) のサービスを掲載させていただいております。

提供データ

※サービスタイプによりに違いがあります



日時



移動人口



滞在人口



推計人口



性別



年代



エリア



移動手段



居住地・勤務地

● with コロナに求められるデータの変化

本記事執筆時点（2020 年 8 月末）、人流情報の提供までのリードタイムのニーズが変化してきていると感じています。

コロナ前までは、人流の動向など、過去の 1 ヶ月前や 2 か月前のデータを提供することでお客様のご要望は満たせておりましたが、コロナ後は「リアルタイム」、「未来予測」などのキーワードがご要望として増えてきております。

日本社会全体が今まで起こりえなかった状況に立たされた結果、過去のデータからの推測だけでなく、現在のデータから状況をリアルタイムに把握し、その後の少し先の未来がどうなるのかまでを見越したデータが必要な時代になってきているのかも知れません。

● G 空間情報センターへの期待

G 空間情報センターは地理空間情報の分野における皆様には認知が深いサイトだと思います。
コロナ後の流れで、地理空間情報は、今まであまり目にしなかった方々にも少しずつ注目を浴びつつあります。

今までデータを利用されていなかった一般の方にも慣れ親しんでいただけるようなはじめの一步となるような企画を期待しております。

そして最終的に様々なユーザーがG空間情報センターにアクセスし、データを使いこなし、国や企業が良い方向に向かうことを願っております。

5.注目の新規コンテンツ紹介

静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ

静岡県が、航空レーザ測量、航空レーザ測深、移動計測車両で取得した3次元点群データを公開しました。

ゲームやシミュレーション等、アイデア次第で様々な場面での利用が期待されます。

*詳細は[こちら](#)から

ご意見・ご要望について

G空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5 代々木伊藤ローヤルコーポ 304号室

メール: info@geospatial.jp

TEL: 03-6455-1845

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。